



再開発が進む羽田空港跡地の中で、産業界の注目を集める「HANEDA INNOVATION CITY (HICity:エイチ・アイ・シティ)」。今年7月、いよいよ一部が先行開業する。羽田空港エリアでできる「スマートエアポートシティ*1」が可能にする、すぐそこにある未来を紹介する。

日本の課題を解決する オープンイノベーションを創出

実証実験に 取り組みやすい環境が イノベーションを生む

首都圏の空の玄関口として親しまれてきた羽田空港。今年、国際線が大幅に増便し、世界がさらに近くなる。しかし、これまで空港と地域がうまく連携できていたとは言い難かった。特に羽田空港がある大田区は、日本のものづくりを支えてきた高度な技術力を持つ町工場の集積地。空港と地元の産業がうまく結びつければ、世界に対して強みに日本の技術力を発信できる。

その実現に向けて、様々な実証実験

を行う環境がここにできる。人々が行き交う場所での新たなテクノロジーの実験は、通常各種法律や届け出など様々な制約条件があり簡単には行えない。しかしHICityにはこのような制約条件が少ないため、比較的容易に行えるというメリットがある。

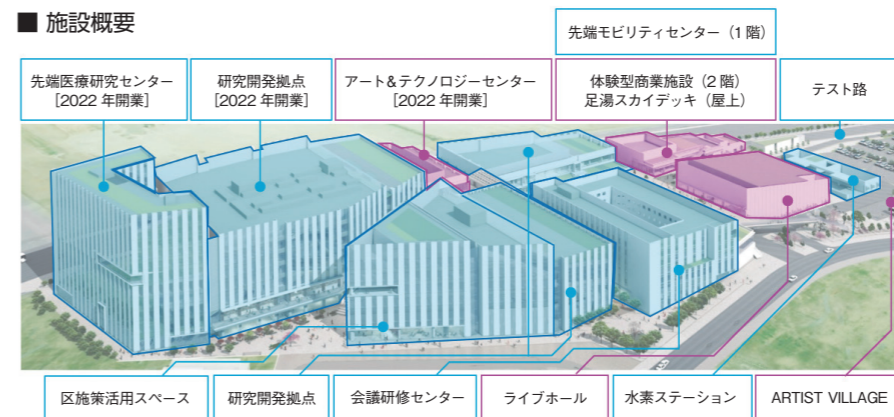
そもそもHICityの開発プロジェクトは地元・大田区との官民連携事業で、地域の課題解決が大きな目標の一つだ。HICityが羽田空港と大田区を結ぶ紐帯となり、大田区、さらには全国各地の課題を解決するためのテストベッドとなることが期待される。そしてその過程で生み出されるイノベーションこ

そ、日本の成長に貢献していく。

5つのテーマ それぞれの試みを支える 多種多様な仕組み

HICityは、「スマートモビリティ」「スマートヘルスケア」「スマートロボティクス」「スマートツーリズム」「スマートマネジメント」をテーマに様々な取り組みを行う予定だ。その実現に向け、「先端モビリティ」「健康医療」「ロボティクス」分野の企業向け研究開発拠点を用意。例えばデンソーは自動運転技術などの研究開発、実証を行うためのテスト路を含む新拠点を設ける。こ

■ 施設概要



ブルーのエリアが先端産業分野の施設で、ピンクのエリアが文化産業分野の施設。多彩な施設を併設することで多種多様な人が集まりやすくし、相互に刺激し合うことで、イノベーションが生まれる

こは開発拠点でありながら、羽田という開かれた場所に置かれた、ショーケースとしての役割を併せ持つ。また、交流・連携創出拠点「Innovation Salon」も用意。コワーキングスペースや会議室を設け、交流を促進するとともに、地域の金融機関が拠点を構えることで先端産業と地域企業のマッチングなども行う。

2022年には先端医療研究センターが開業する。再生医療や低侵襲治療*2などに特化した臨床施設を併設する予定だ。一方、対岸の川崎市に整備された「殿町国際戦略拠点 キングスカイフロント」には多くのライフサイエンス企業が集まっている。両者の持つ臨床機能と研究が連携することで、日本の医療の質を高める取り組みが期待される。

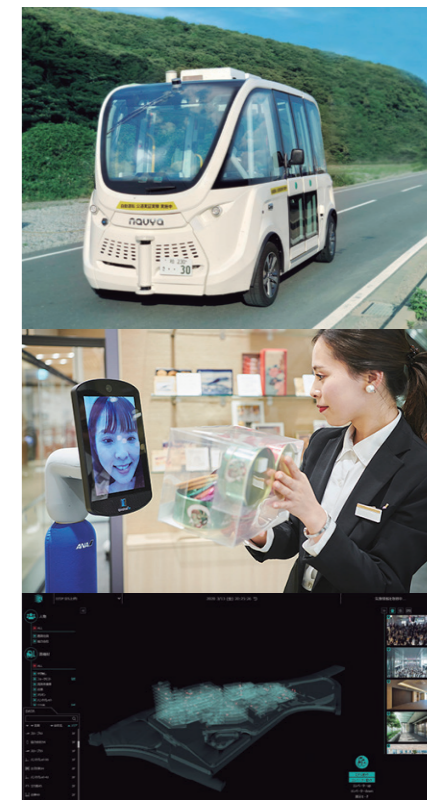
これら様々な施設が入る複数の建物は、イノベーションコリドーで結ばれ人々の交流を促す。ここでは、アバターロボットを介した遠隔からのコミュニケーション支援や、警備や荷物配送支援など、先端ロボットの実証実験も行われる。今後清掃ロボットや案内ロボットなど種類が増える予定で、いろいろな機能を持ったロボットたちが活躍する様子を目の当たりにできる

だろう。また、スマートシティモデルで初めて自律走行バスが定期巡回する予定だ。

HICityの運営は9社が出資し、鹿島が代表を務める羽田みらい開発が行う。運営・管理には、BIM/CIM*3を活用した空間情報データ連携基盤「3D K-Field」を用意。3次元の空間モデル上で、上述の自律走行バスやロボットが動く様子を可視化する。ロボットは通常はメーカーごとに管理されるが、それでは部分最適で全体の動きが分からない。鹿島が開発した空間情報データ連携基盤を運用することで、全体最適が可能になる。膨大に蓄積されるビッグデータはAI(人工知能)を使って解析し、管理の効率化や動線の改善など多方面に活用されていくはずだ。

日本発のイノベーションを 羽田空港を通して世界へ

東京都内に新たに出現するイノベーション拠点、HICity。先端企業が集うことで交流が生まれ、新たなテクノロジーの創出が期待される。また、羽田空港至近という立地は、進出企業にとっても有利。例えば、ノーベル賞級の科学者など忙しく時間がない海外要人も、ここなら容易に視察をしてくれ



上：自律走行バス。中：アバターロボット「newme (ニューミー)」を介してリモートで商品を説明する様子。下：鹿島が開発を進めている「3D K-Field」のイメージ

るだろう。世界第一級の“知”とのコラボレーションが行われやすくなる。

人々が行き交う場所で様々な実証実験ができるHICityは、産業界からの期待も大きい。既に7月6日から1週間、日本自動車工業会が自動運転の公開実証実験を行う予定だ。また、ベンチャー企業が投資家にアピールするピッチコンテストを行いたいという声もある。

HICityが生み出すオープンイノベーションが日本の課題を解決し、さらには羽田空港を通じてそのテクノロジーを世界に発信していく。そんな未来は、もうそこまで来ている。 **AI**

*1 スマートエアポートシティ：空港近接地における大規模複合施設開発であり、実証実験などの取り組みを行うスマートシティの意 *2 低侵襲治療：大きな開腹を伴わず、内視鏡などを使って行う外科手術 *3 BIM/CIM：Building Information Modeling、Construction Information Modeling/Managementの略。前者がビル、後者が建設現場の3次元モデルに様々な施工・管理情報を付加して活用する仕組みで、後者はその概念を土木工事にも活用しようとするもの

HANEDA INNOVATION CITY



2階に設置され各建物を結ぶ歩行者専用デッキ「イノベーションコリドー」。開放的な空間が、人々の交流を促す